

第3・4学年 図画工作科

1 学年の目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かるとともに、手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考え、豊かに発想や構想したり、身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
- (3) 進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

2 内容

A 表現	(1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えること。 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。
	(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かした、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくること。 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。
B 鑑賞	(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。
〔共通事項〕	(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。 イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

3 内容の取扱いと指導上の配慮事項

- (1) 児童が個性を生かして活動することができるようにするため、学習活動や表現方法などにも幅をもたせるようにする。指導に当たっては、目指す資質・能力を明らかにし、児童の表現を幅広く捉えるとともに、児童が自分の思いで活動を進めることができるようにすること。
- (2) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、児童が〔共通事項〕のアとイとの関わりに気付くようにする。自分の感覚や行為によって、自分なりのイメージが生み出されることを造形遊びをする活動や絵や立体、工作に表す活動、鑑賞する活動を通して児童が気付くように指導すること。
- (3) 第3学年及び第4学年においては、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを捉えられるようにすること。それらを捉えられるようにするために、児童が活動を通して色の変化などを味わうようにすることや、捉えたことを友人と確かめたり、言葉で伝え合ったりする時間を十分に確保すること。必要に応じて前学年で捉えた事項を取り上げて確認し、学習しながら次第に

新たなとらえ方ができるようにすること。

- (4) 「A表現」の指導に当たっては、活動の全過程を通して児童が実現したい思いを大切にしながら活動できるようにし、自分のよさや可能性を見いだし、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにすること。
- (5) 学習の過程においては、一人一人の児童がよさや個性などを生かして活動できるようにし、友人と互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにする。そのために友人の作品や活動、言動に関心をもつことができるような交流の場面を設定すること。
- (6) 第3学年及び第4学年においては、木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなどを児童が材料や用具の特徴を捉えながら、表したいことに合わせて扱うことができるようにすること。
- (7) 児童の発達や実態を考慮した上で、児童一人一人が自分の関心のある表し方で表現を楽しみ工夫できる程度の版に表す経験や焼成する経験ができるようにすること。
- (8) 「B鑑賞」の指導に当たっては、児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること。
- (9) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、思考力、判断力、表現力等を育成する観点から、感じたことや思ったこと、考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったりする、言葉で整理するなどの言語活動を充実すること。
第3学年及び第4学年の鑑賞においては、自分の作品や美術作品などについて、どのように感じたり思ったりしたのかの根拠や理由を明確に話したり、適切な人数で話し合ったり、気持ちを振り返って書いたりする機会を設けること。
- (10) コンピュータ、カメラなどの情報機器の利用については、表現や鑑賞の活動で使う一つの用具として扱うとともに、必要性を十分に検討して利用すること。
- (11) 一人一人の児童が創造することを大切にした指導を積み重ねることで、その価値に気付かせるようにする。中学校美術科での素地を育成するため、様々な情報などを主体的に取り入れながらも、自ら考え工夫するような創造活動の意味や価値が実感できるようにするとともに、自分たちの作品や美術作品に表れている創造性を大切にする態度を養うようにすること。

4 安全指導

造形活動で使用する材料や用具、活動場所については、安全な扱い方について指導する、事前に点検するなどして、事故防止に留意すること。様々な学習場面で児童が材料や用具を扱う機会をつくり、十分に慣れ親しむことができるようにすることが重要である。

5 学校としての鑑賞の環境づくり

校内の適切な場所に作品を展示するなどし、平素の学校生活においてそれを鑑賞できるよう配慮する。また、学校や地域の実態に応じて、校外に児童の作品を展示する機会を設けるなどする。

6 評価の観点の趣旨

観 点	観点の趣旨
知識・技能	自分の感覚や活動を通して、形や色などの感じが分かり、全身を十分に働かせて材料や用具を適切に扱いながら、表現方法を工夫したり、自ら造形活動を充実させたりしている。
思考・判断・表現	自分が表現したいことや表現方法などを考え、形や色、イメージなどを基に豊かに活動や表し方を思い付いたり、身近な作品などのよさや面白さを味わったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	自分の資質・能力を発揮し、友人と関わり合いながら自分の思いを形や色に表したり自分の考えを大切に鑑賞したりし、楽しく豊かな生活を創造しようとしている。